

## 令和元年度 第2回 館山市総合計画審議会 会議記録

- 1 日 時 令和元年10月8日(火) 13:30~16:30  
 2 場 所 若潮ホール 2階 第2ホール  
 3 出席者

委員構成	氏 名	役 職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	鈴木 ひとみ	市議会議員
	室 厚 美	市議会議員
	龍崎 滋	市議会議員
産業関係者	石渡 和男	館山商工会議所 推薦
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推薦
	竹内 信一	公益社団法人 安房医師会 推薦
	平野 直	館山市地域公共交通会議 推薦
	吉田 真司	一般社団法人 館山青年会議所 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
行政関係者	池田 一浩	千葉県安房地域振興事務所 推薦
教育関係者	森 真	国立館山海上技術学校 推薦
	守安 委久予	館山市教育委員会 推薦
金融関係者	景山 富代	館山市金融団(二十日会) 推薦
労働関係者	大谷部 博明	館山公共職業安定所 推薦
報道関係者	片方 義明	館山記者クラブ 推薦
知識経験者	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	石渡 秀嗣	館山市子ども・子育て会議 推薦
	廣中 元衛	館山市スポーツ協会 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口 かおり	公募委員

(欠席者) 高橋實委員、館石正文委員、羽山敏雄委員、秋山一夫委員

## 4 議題

- (1) 今後の策定スケジュールについて
- (2) 国の『まち・ひと・しごと創生基本方針2019』等について
- (3) 人口ビジョン改訂版の考え方（事務局案）について【協議】
- (4) テーマ別意見交換【協議】
  - ①SDGs とどう向き合っていくか。
  - ②若者に選ばれるまちになるためには。（仕事・教育）
- (5) 第4次館山市総合計画『後期基本計画』策定方針について
- (6) その他

## 5 会議の経過

1. 開会
2. 市長挨拶

金丸市長：ご多用の中、本審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から市政発展のためのご尽力を賜っていることに対しましても、厚くお礼を申し上げます。

9月9日の台風15号では、県内、特に安房地域において甚大な被害がありました。委員の皆様におかれましても、被害を受けられた方も多くいらっしゃると思います。心よりお見舞い申し上げます。これまで、自衛隊や消防署、国、県、他の自治体の職員やボランティアの方々など、多くのご支援を賜りながら支援物資配布や復旧作業を行って参りました。明日でようやく1ヶ月が経ちますが、当初の大規模停電による混乱も解消され、徐々に通常の生活に戻りつつありますが、現在もなお、避難所生活を送っている方々がいらっしゃいます。本日の審議会につきましては、当初、菜の花ホールでの開催を予定しておりましたが、同ホールが避難所となっているため、急遽、若潮ホールに変更した次第です。今回の台風では、家屋の全壊が62、半壊が750、一部損壊が483となっており、現在、罹災証明書の発行を進めておりますが、すでに5000件以上の申請がございます。これから長期にわたって、今回の災害被害について対応していくこととなりますが、『チーム・オール・館山』で引き続き、全力で取り組んで参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、本日は第2回審議会でございます。人口ビジョン改訂版（事務局案）についてご審議いただくほか、総合戦略につきましては、SDGs や若者に選ばれるまちづくりなどについてご協議いただく予定でございますので、ぜひ忌憚のないご意見をよろしくお願いたします。

結びに、各界各層の代表であります委員の皆様方には、市政へのより一層のご協力をお願い申し上げまして、挨拶といたします。

3. 欠席委員の報告

#### 4. 議事

(1) 今後の策定スケジュールについて

※事務局より説明

(2) 国の『まち・ひと・しごと創生基本方針2019』等について

※事務局より説明

竹内委員：国の『まち・ひと・しごと創生基本方針2019』は総論ばかりで、具体性がないと感じます。国は美辞麗句ばかり並べているように思います。私自身は少子高齢化はあまり気にしておりません。それよりも、就職氷河期に社会に出た人たちへの支援や子育て支援など、目の前にある問題の解決に取り組むことが大切ではないでしょうか。

石渡会長：本日の意見交換で、各論的な内容もご協議いただきたいと思います。

(3) 人口ビジョン改訂版の考え方（事務局案）について【協議】

※事務局より説明。

石井敏宏委員：現行の人口ビジョンの推計と比較して、整合が取れているので妥当ではないでしょうか。出生率1.8は、若い人が持ちたい子どもの数を示す希望出生率とのことですが、現実にはまだ実現していません。2060年には、現在とはかなり社会状況が変化していると考えられるので、人口置換水準である出生率2.07を達成することも不可能ではないのでしょうか。改訂版では2060年に1.8を目指すとしていますが、2030年に1.8を目指すことも考えられます。

鈴木ひとみ委員：出生率を重視することは、特に20～40代の女性にとって大きな負担になると思います。子どもを産まない人もいますから、目標の出生率を達成するためには、全体で見た場合、3～4人育てなくてはならない人もいることになります。女性の社会進出が進む中で、20～40代の女性への負担が増していると感じます。社会全体で子育てを担っていく必要があると思います。

大谷部委員：現行の人口ビジョンでは、転出超過の年齢階級は、社人研推計による移動率を85%に抑制、転入超過の年齢階級は、社人研推計による移動率を115%に促進するとの前提の下、推計されているとのことですが、実績はいかがでしょうか。

コンサルタント：実際には、10代の転出抑制ができておらず、特に女性の転出が多くなっています。また、人口ビジョンでは、20代は転入促進を目指してきましたが、こちらも未達成です。他方、高齢層については、転出抑制、転入促進ともうまくいっています。

室委員：現実の人口を見ると、いつも社人研推計を下回っています。出生率2.07を達成するのは、現実的に難しいと思います。市として、目標を高めを設定しておきたいということであれば「積極シナリオ」でもよろしいかと思いますが、実際はこれを下回る可

能性が高いと考えます。

田中委員：「人口ビジョン検討資料」の「年齢5歳階級別純移動」のグラフで、「20～24歳→25～29歳」といった表記がありますが、これはどのような意味でしょうか。

コンサルタント：5年後に当該世代が5歳年を取ることを示しています。

事務局：本日は2060年の目標人口を決定し、その基となる合計特殊出生率や純移動率の設定が妥当であるかどうかについてご協議いただければと考えます。

田中委員：出生率1.8自体は妥当だと思いますが、2.07は厳しいと感じます。子どもたちの進学先など、教育に絡んだ問題がある中で、どのように転出抑制、転入促進を進めていく考えでしょうか。

事務局：今後検討していきたいと思います。テーマ別の意見交換でもご協議いただければと考えます。

田中委員：では、純移動率については現段階ではそれほど深く検討しなくてもよろしいでしょうか。

事務局：ある程度妥当か否かをご判断いただければと思います。

田中委員：私は純移動率について、妥当と考えていないので、後ほどお話ししたいと思います。

鈴木雄委員：私は子どもが4人おり、それほど子育てが大変とは思いません。出生率の目標を2.0以上に設定してもよいのではないのでしょうか。

室委員：子どもが4人いる方もいますが、現実には出生率は2.0に届いておらず、これを実現するのは非現実的と思われます。また先ほど、純移動率は現段階では決める必要がないとのお話がありましたが、純移動率を根拠として目標人口は固まってくると考えますので、純移動率についても先に議論しておく必要があるのではないのでしょうか。現実的には、「悲観シナリオ」程度が妥当ではないかと思います。

事務局：現行人口ビジョンでは、転出超過の年齢階級は、社人研推計による移動率を85%に抑制、転入超過の年齢階級は、社人研推計による移動率を115%に促進するとの前提の下、推計しておりますが、このパーセンテージが妥当かどうか、また2060年の目標人口についても改めてご意見をいただきたいと思います。

溝口委員：この場で結論を出すのでしょうか。

事務局：この会議でお決めいただきたいと思います。

溝口委員：具体的な政策がなければ、判断できません。目標人口の達成に向けた政策は、目標の決定後に固めていく考えでしょうか。

事務局：そのように考えております。

石渡会長：どういう政策で目標を実現していくのかが明確でなければ、現実的な議論が難しくなるのではないのでしょうか。

事務局：目標人口の決定後に詰めていく予定でおります。

石渡委員：孫が3人おりますが、子育ての大変さについてよく理解しているため、高い出生率を達成することがどれほど大変なことか実感として分かります。目標人口については、まずは設定した上で、実現に向けて何をしていくべきか考えていくことが重要ではないでしょうか。出生率1.8を達成するのは大変ですが、不可能ではないと思います。子育ての大変さを踏まえた上で議論していくべきだと考えます。

守安委員：まず、目標の手がかりとなる数字がないと、政策を決定することはできないと思いますし、その政策について議論していくのも我々の役割だと考えます。

景山委員：目標人口はあくまでも目標であり、あまり悲観的になり過ぎず、館山市全体でがんばっていくことが大切だと思います。もちろん、2060年に3万人を維持するのは大変ですが、我々の意思を示すことが大事なのだと思います。

石井敏宏委員：目標人口はあくまでも目標です。政策が固まっていないとのことですが、前期基本計画でも市は、子育て支援や移住定住の促進等に取り組んできたところですので、これをベースにしていけばよいのではないのでしょうか。事務局案については、おおむね妥当と考えます。

田中委員：「積極シナリオ」には賛成ですが、設定された純移動率には反対です。15歳～19歳が20～24歳になる5年間で、転出を85%抑制するのは不可能だと思います。個人的には、高校卒業後、一度館山を出ること自体は悪くないと思います。むしろ「戻ってきたい」と感じてもらえる仕組みづくりこそが重要ではないのでしょうか。したがって、例えば25～29歳が30～34歳になる5年間で、転入促進を115%からもっと上乗せするほか、30～34歳が35～39歳になる5年間については、転出抑制ではなく、転入促進とすることも考えられます。

事務局：まずはシミュレーションを試みたいと思います。

石井敏宏委員：確かに、高校卒業後の年代で、転出抑制をするのは難しいと思います。

龍崎委員：子どもがまちを出ていく背景には、進学のほか、地元の仕事がないといった要因があるのだと思います。

竹内委員：事務局案には賛成できる部分も反対の部分もあるので、採決を取る際は棄権してもよろしいでしょうか。

事務局：棄権するかどうかは、各委員の判断に任せたいと思います。4つのシミュレーションのうち、どれを選択するかを決めていただきたいと思います。事務局としては「積極シナリオ」を採用したいと考えます。

石渡会長：「積極シナリオ」でよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。賛成 19 人、反対 1 人、棄権 1 人なので、賛成多数で「積極シナリオ」を採用します。

#### (4) テーマ別意見交換【協議】

##### ①SDGs とどう向き合っていくか。

※事務局からの説明後、館山青年会議所の吉田委員および館山市金融団（二十日会）の景山委員から、企業の SDGs に対する認識等について説明してもらおう。

吉田委員：日本青年会議所は、今年度日本一 SDGs を推進する団体として取組を進めています。また、今年度外務省とタイアップ宣言をしました。SDGs の前身である MDGs は、2000 年から 2015 年の期間で、8つの目標を立てていました。SDGs と MDGs の大きな違いは、持続可能かどうかという点です。MDGs は企業や国が他の国を支援して目標を達成するという一方、SDGs は普段の生活をする中で目標が達成されるという観点です。17の目標がありますが、各国での達成状況がまとめられています。目標5のジェンダー平等について、日本では進んでおらず、注目が集まっています。行政として行っていただきたいことは、SDGs 未来都市モデル事業に選ばれていただきたいと思います。企業や市民の方は、普段の生活で SDGs を意識することで取引先が大きく変わります。世界的には、安全基準が注目されており、日本の安全性が基準をクリアしているかが注目されています。安全基準を守る意識が高い企業と取引したいと思うのは当たり前だと思います。館山市内の企業に関しては、SDGs を理解し取り組むことが必要です。館山市ではあまりまだ取組が進んでいませんが、まず行政が SDGs について市民に伝えていくことが重要です。

景山委員：SDGs とは、企業が活動をする中で、社会や環境の課題解決に向けて、日々持続して行動していくことではないかと理解しています。先日、SDGs とパリ協定が変えるビジネスのあり方というテーマのセミナーがありました。先進国の多くは、CO2 をゼ

ロにする目標を掲げている中で、日本は2050年までにマイナス80%と掲げており、遅れているのではないのでしょうか。

竹内委員：地球規模の話も重要ですが、館山の話をしたと思います。今まで台風による大きな被害は館山にはありませんでしたが、今回の台風15号では被害がありました。安心という概念が崩れたため、行政として対応が必要だと思います。身近なところから安心を考え、行政と皆さままで考えなければならぬと思います。まず地元のことに関する議論を行うべきで、それが日本全国の問題へつながっていくと思います。

石渡会長：世界や国レベルではSDGsは広がっていますが、千葉県内ではまだまだ浸透していません。自分の手元の小さな問題が積み重なって大きくなり、SDGsにつながっていません。人口問題やSDGsについて、また時間があれば議論したいと思います。

< 15:30～15:35 休憩 >

②若者に選ばれるまちになるためには。(仕事・教育)

※事務局からの説明の後、3グループに分かれて協議し、コンサルタントが意見内容を発表した。

※別紙参照

コンサルタント:Aグループの意見を発表します。教育には複数の側面があり、大学を目指し進学率を上げることを目指す一方、自然教育や環境教育など館山ならではの教育を充実させていくことも必要ではないかという意見がありました。また、中学卒業から市外に出る選択は、お子さんより親御さんが薦めていることがあるかと思います。親御さんに訴えることができる、市内に残ってもらえるようなカリキュラムを作ることが必要です。地元高校がどう変わるかについての意見も出ました。人を育てることは重要ですので、教育の本質を忘れないで進めていくべきです。

仕事については、館山を選択してもらい、地元につながる魅力が必要だという意見が出ました。仕事も教育も、地産地消のように地域内で循環していく仕組みを作る必要があるという意見がありました。

コンサルタント:Bグループの意見を発表します。仕事と教育は切り離して考えるのではなく、同時並行で考える必要があります。教育は長いスパンで考え、種まきをするべきだという意見が出ました。具体的には、高校卒業後などでは一旦外に出て、他の世界を見ることで人脈や視野を広げてほしいということです。そして館山に戻ったときには、起業など新たに働く場所を創造できる人材を育てることが重要ではないかという意見がありました。また、単に学力だけを上げるのであれば、他の自治体も取り組んでおり、飛び抜けることは難しいです。よって、それに加えて創造する力、チャレンジする力を育てる特色ある教育を進めることが重要です。

仕事に関しては、起業したい人がいる一方、地元で安定した職に就きたい人も一定数

います。起業による働く場所の創出や、企業誘致などによる働く場所の確保が重要です。大学誘致に関して、総合大学の誘致は難しいため、専門大学が現実的ではないかという意見もありました。

コンサルタント:Cグループの意見を発表します。仕事についてのキーワードは、選択肢です。課題認識として、大学卒業後にしっかりと稼げる仕事の種類は、教員や公務員以外ではあまり選択肢が多くないという意見がありました。ITを活用して、都心からサテライトオフィスを誘致することや、農業の後継者問題解決のためにIoTを活用するなど、先端技術を活用して選択肢を広げていくとよいのではないのでしょうか。

教育についてのキーワードは、独自性です。過疎化している地域の特徴を逆手にとり、少人数教育を推進するなど、単に学力を上げるのではなく、館山ならではの独自の教育を伸ばしてはどうかという意見がありました。仕事にも教育にも関わりますが、館山の一番の強みは人と人とのつながりであり、それを最大限に活かしてまちづくりを進めていくことが重要という意見がありました。

事務局:本日は多くのご意見を出していただき、ありがとうございました。本日いただいた意見は、今後各課での計画策定に活用させていただきます。

#### (5) 第4次館山市総合計画『後期基本計画』策定方針について

※事務局より説明

石井敏宏委員:今回の台風が来る前に書かれた内容だと思います。防災の強化については反映されているので、大幅な修正が必要だと思います。大まかな方針は良いですが、今後防災に力点を置いていただきたいと思います。

田中委員:今回の台風により、市民の意識が大きな転換を迎えたと思います。後期基本計画策定だけでなく、SDGsとも大きく関連すると思います。SDGsの考え方をもっと議論したほうがよいと思います。

事務局:次回の審議会でもSDGsについてもご意見をいただければと思います。石井委員からお話があった復興関連については、総合戦略にも施設の長寿命化など記載されている部分もございます。第1期総合戦略ではそこまで強く打ち出していなかったため、第2期では、どのような取組を位置付けるべきか、次回の審議会でご意見をいただければと思います。

#### (6) その他

※特になし

### 5 その他



事務局：次回の審議会は、12月3日（火）13:30から、コミュニティセンター2階の集団指導室を予定しています。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

以 上